

小学校家庭教育学級生のための Zoom 体験講座報告

コロナウイルス感染拡大防止対策のため、テレワークをはじめ社会全体でオンラインを利用した活動が増えてきています。今年度になり、小学校家庭教育学級でも、オンラインによる学習会を開催する学校が見られるようになりました。

オンラインの活用は、多くの人が一か所に集まる必要がなく、コロナ禍で学習会を開催するうえで感染防止対策の一つとして考えられます。

しかし、実際にオンラインを利用した学習会を計画する段階で、「オンラインに参加する方法が分からない」とか「どのように主催していけばよいか分からない」という学級生の声を耳にしました。

オンラインに対する学級生の不安を少しでも解消するために、「小学校家庭教育学級生のための Zoom 体験講座」を企画したということが今回の背景となります。

- 1 目的 ○ Zoom について理解するとともに、Zoom への参加の仕方を体験する。
○ Zoom での話し合いの仕方や主催する方法について理解を深める。

2 Zoom 体験講座ステップ1 「使ってみよう Zoom (基礎編)」

(1) 内容 ○Zoom とは? ○Zoom への入り方

(2) 講師 まつどでつながるプロジェクトオンラインパークマネージャー林 拓郎 氏

(3) 日時・場所・参加人数

日時	場所	参加者
1月17日(月) 11:30~12:10	文化ホール 国際友好ルーム	17名
1月19日(水) 11:30~12:10	常盤平市民センター	19名
1月20日(木) 11:30~12:10	青少年会館 集会室	18名

(4) 概要

ステップ1は、運営委員の方にも体験してもらいたいという考えもあり、家庭教育学級の研修会で実施しました。多くの方がスマホでの参加となりましたが、数名はタブレットを使用していました。

林先生の丁寧な説明を聞きながら、Zoom アプリの入れ方、Zoom への参加の仕方、画像や音の出し方などを教わりました。

すでに Zoom を経験している方とそうでない方がいらっしゃいましたが、結果、全ての方が自分の機器を使って Zoom に参加することができました。

講座終了後にも、林先生に分からないことを質問する方もいて、Zoom などのオンラインを活用する必要性を感じている方も多いことが分かりました。



3 Zoom 体験講座ステップ2 「やってみよう Zoom 会議（実践編）」

(1) 内容 ○Zoom での話し合いの仕方 ○Zoom を主催する方法

(2) 講師 まつどでつながるプロジェクト運営協議会マネージャー 阿部 剛 氏

(3) 日時・場所・参加人数

日時	場所	参加者
1月31日(月) 10:30~12:00	Zoom	25名

(4) 概要

ステップ2は、25名が自宅から Zoom 体験講座に参加しました。受付の時間になり、一人二人とパソコンの画面に参加者が増えていきました。

Zoom の操作に慣れている方も多いのか、定刻に開始することができました。はじめのうちは全員に向けた説明をしましたが、途中でブレイクアウトルーム（小部屋）に分かれ、「最近感じた我が子の成長」などの話題を中心に、少人数での Zoom 会議を体験することができました。

講師によるお話はみんなで聞き、その後少人数で話し合うという学習会のパターンにはぴったりの取り組みだと思いました。

講師の阿部先生も、参加者の質問に丁寧に答えていただき、全員が予定していた内容をクリアすることができました。



4 感想

オンラインには、パソコン、スマホ、タブレットなど、いろいろな機器を使って参加できますが、その機器ごとで操作方法に違いが見られます。主催する方も参加する方も、オンラインを活用した学習会に慣れることが必要だと感じます。

昨年度も今年度も、いくつかの学校でオンラインの練習を兼ねた学習会が行われたのもそうした背景があるのだと感じています。

コロナウイルスの感染防止対策を推進してきたのに、オミクロン株の発生などにより、陽性者の数が増加しています。そうすると、学校に集まって学習会を開催することを躊躇するという考えが生まれることは仕方がないことだと思います。

だからこそ、従来の「人が集まって行う学習会」だけでなく、オンラインの活用などによる「人が集まらなくてもできる学習会」を考えていかなければならないと思います。今後、各学校で行われる学習会も、人が集まって行う対面式の学習会、オンラインの活用による非対面式の学習会、また、両方の組み合わせなどを工夫していく必要があるかもしれません。

参加者のアンケートには、短い時間でしたが、知りたいことを分かりやすく教えていただき、Zoom に対する抵抗感がなくなりました。オンラインの利便性を感じたので、学習会に活かしていきたいなどの声が多数ありました。